

の、他の要因も影響を持っている課題と考えられる。ADL高群におけるオッズ比では、食事に特有の状態である「食べることが好き」、「食卓上の認知」、「食事時間の認識困難」が、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で高かった。また、「反復的動作」、「認識と動作」、「記憶」「不穏暴言」、「言語コミュニケーション」において状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であったが、ADL中群や低群の結果と類似していた。

これらを総合して考察すると、「他の人の食事に手を出す」ことは、ADLの状態が全般に良好である場合にも、食べることが好きで食事に特化して意欲や認知が低下している場合に生じやすいこと、また全般的な行動としては認識と動作（複雑動作や模倣）について課題がある場合に生じやすいこと、記憶とコミュニケーションの課題によっても生じやすいことが示唆された。

表1-1 オッズ比の有意性比較表(食事)

項目	項目1			項目2			項目3		
	L	M	H	L	M	H	L	M	H
視力	*					-			
聴力	-					-			
ADL	*	*		-	*	*	-	*	*
記憶				*	*		*	*	*
見当識					*		*	*	
判断				*			*	*	
言語コミュニケーション	*				*		*	*	*
認識と動作	*					*	*	*	*
感情表現									
変化への適応									
自発的行動				*			-	-	-
活動意欲	*					*			
妄想						-			
不安				*					
幻覚		*		*	*			*	
不穏暴言	-	-		*			*	*	*
反復的動作	-			*	*	*	*	*	*
座位姿勢の保持困難	*								
腕が動かない	*	*							
指がうまく動かない				*					
食事意欲が低い		*		*	*	*	-	-	
食卓上の認知困難	*	*			*	*	*	*	*
食事時間の認識困難				*	*	*	*	*	*
食べることが好き	-			-	-		*	*	*

*: 状態像が悪いと、ニーズ項目への該当率が高い

-: 状態像が良いと、ニーズ項目への該当率が高い

※項目1のH群は、該当例数が少なく解析不能であった

(2) 排泄（排尿）の課題

排泄の課題としては、「排尿の介助を嫌がる」、「よく漏らしてしまう」、「ときどき漏らしてしまう」の3つを解析の対象とした。また、排泄（排尿）特有の状態像項目として、「おむつ使用」、「ポータブルトイレ使用」、「トイレ使用」、「尿とりパッド使用」の4項目を独立変数として追加した。これら4項目は状態像としての良し悪しではなく、「使用」に該当する場合に高得点を付与した。

解析結果のうち、オッズ比の有意性について集約したものを表1-2に示した。なお、それぞれの解析結果は資料4-1・2・3、資料5-1・2・3、資料6-1・2・3に示した（付録参照）。

① 「排尿の介助を嫌がる」（表1-2、資料4-1・2・3）

ADL低群では924名（12.5%）、ADL中群では604名（10.2%）、ADL高群では120名（3.7%）の該当者がおり、ADLが影響を及ぼしているものの、他の要因も影響を持っている課題と考えられる。ADL高群におけるオッズ比では、排泄に特有の状態である「トイレ使用」や「尿取りパッド利用」の場合に該当率が高まる方向性で高かった。さらに「不穏暴言」だけが状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であったが、ADL中群や低群の結果と同様の結果であった。むしろ、ADL中群や低群では「反復的動作」や「言語コミュニケーション」について状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であった点がADL高群では見られなかった。

これらを総合して考察すると、「排尿の介助を嫌がる」ことは、ADLの状態が全般に良好である場合には、トイレ介助を必要とする場合に不穏・暴言があるときに生じやすいことが示唆された。

② 「（尿を）よく漏らしてしまう」（表1-2、資料5-1・2・3）

ADL低群では3,314名（44.9%）、ADL中群では1,770名（29.8%）、ADL高群では225名（6.9%）と全体として該当者が多かった。ADLが影響を及ぼしているものの他の要因も影響を持っている課題と考えられる。どの群でも排泄に特有の状態である「トイレ使用」、「おむつ使用」、「尿取りパッド利用」の場合に該当率が高まる方向性で高かった。さらにADL高群におけるオッズ比では、「認識と動作」について状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であり、「変化への適応」では状態像がよい場合に該当率が高まる方向性で有意であった。これは他の2群では認められずADL高群に特有の傾向であった。一方、他の2群では「不穏暴言」、「反復的動作」「記憶」について状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であったが、ADL高群では有意ではなかった。

これらを総合して考察すると、「（尿を）よく漏らしてしまう」ことは、ADLの状態が全般に良好である場合には、認識と動作に課題がある場合に生じやすく、また変化に対する適応力が良好な場合にも生じやすくなることが示唆された。

③ 「(尿を)ときどき漏らしてしまう」(表1-2、資料6-1・2・3)

ADL低群では1,616名(21.9%)、ADL中群では2,593名(43.6%)、ADL高群では880名(27.2%)と全体として該当者が多く、またADLの障害が中・軽度の場合に生じやすくADL以外の要因が影響を及ぼしている課題と考えられる。ただし、ADL低・中群においては、ADLについて状態像がよい場合に該当率が高まる方向性で有意であったのに対して、ADL高群においては、ADLについて状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であり、ADL高群ではADLが影響を与えているといえる。

どの群でも排泄に特有の状態である「トイレ使用」、「尿取りパッド利用」の場合に該当率が高まる方向性で高かったが、「おむつ使用」については、ADL低・中群では使用している場合に、ADL高群では使用していない場合に該当率が高まる方向性で有意であった。

オッズ比が有意な項目は全体に少なかった。ADL高群におけるオッズ比では、「反復的動作」について状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であった。これは他の2群では認められずADL高群に特有の傾向であった。該当率の最も高いADL中群ではオッズ比が有意な状態像が認められず、ここにあげた状態像項目ではとらえきれない要因がある、または影響を与える要因がさまざまであるものと推察される。ADL低群におけるオッズ比では、「不安」について状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であり、「見当識」、「不穏暴言」では状態像がよい場合に該当率が高まる方向性で有意であった。

これらを総合して考察すると、「(尿を)ときどき漏らしてしまう」ことは、ADLの状態が全般に良好である場合には、ADLに課題がある場合に生じやすく、また徘徊などの反復的動作がある場合にも生じやすくなることが示唆された。

表1-2 オッズ比の有意性比較表(排泄)

項目	ADL								
	L ADL低群			M ADL中群			H ADL高群		
14=排尿の介助を嫌がる									
15=よく漏らしてしまう									
16=ときどき漏らしてしまう									
	項目14			項目15			項目16		
	L	M	H	L	M	H	L	M	H
視力				-		-	*		
聴力									
ADL	-		*	*	*		-	-	*
記憶	*			*	*				
見当識				*			-		
判断				*					
言語コミュニケーション	*	*							
認識と動作						*			
感情表現									
変化への適応	*					-			
自発的行動									
活動意欲									
妄想	*			*					
不安	-	-					*		
幻覚	-								
不穏暴言	*	*	*	*	*		-		
反復的動作	*	*		*	*				*
おむつ使用		*		*	*	*	-	-	*
ポータブルトイレ使用							*		
トイレ使用	*	*	*	*	*	*	*	*	*
尿とりパッド使用	*	*	*	*	*	*	*	*	*

*: 状態像が悪いと、ニーズ項目への該当率が高い

-: 状態像が良いと、ニーズ項目への該当率が高い

(3) 入浴の課題

入浴の課題としては、「浴室に行くのを嫌がる」、「浴室内で入浴行為を嫌がる」、「入浴の介助を拒絶する」の3つを解析の対象とした。また、入浴特有の状態像項目として、「主に機械浴槽を使用」、「主に個別浴槽を使用」、「主に大浴槽を使用」の3項目を独立変数として追加した。これら3項目は状態像としての良し悪しではなく、「使用」に該当する場合に高得点を付与した。

解析結果のうち、オッズ比の有意性について集約したものを表1-3に示した。なお、それぞれの解析結果は資料7-1・2・3、資料8-1・2・3、資料9-1・2・3に示した(付録参照)。

① 「浴室に行くのを嫌がる」(表1-3、資料7-1・2・3)

ADL低群では1,198名(16.2%)、ADL中群では1,305名(21.9%)、ADL高群では558名(17.2%)の該当者がおり、ADLよりも他の要因が影響を持っている課題と考えられる。ADL高群では入浴の形態として「主に個別浴槽を使用」、

「主に大浴槽を使用」の場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が高かった。しかし、状態像としては、3群とも共通に「記憶」、「変化への適応」、「活動意欲」、「不穏暴言」、「反復的動作」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であり、ADL高群特有の特徴は見られなかった。

これらを総合して考察すると、「浴室に行くのを嫌がる」ことは、ADLの状態に関わらず、記憶の持続が短いこと、変化に対する適応が悪いこと、活動への意欲が低いこと、不穏状態や暴言があることや徘徊等の反復的動作があることによって、浴室に行くのを嫌がるが生じやすいことが示唆された。

②「浴室内で入浴行為を嫌がる」(表1-3、資料8-1・2・3)

ADL低群では1,130名(15.3%)、ADL中群では696名(11.7%)、ADL高群では156名(4.8%)の該当者がおり、ADLが影響を及ぼしているものの、他の要因も影響を持っている課題と考えられる。ADL高群では入浴の形態として「主に個別浴槽を使用」の場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が高かった。状態像としては、3群とも共通に「変化への適応」、「不穏暴言」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であった。ADL高群だけの特徴としては、「感情表現」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であった。また、ADL低群・中群では、「記憶」、「判断」、「反復的動作」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であったが、ADL高群では有意ではなかった。

これらを総合して考察すると、「浴室内で入浴行為を嫌がる」ことは、ADLの状態に関わらず、変化に対する適応が悪いこと、不穏状態や暴言があることによって、浴室に行くのを嫌がるが生じやすく、とくにADLの状態が全般に良好である場合には感情表現が極端になる場合に生じやすいことが示唆された。

③「入浴の介助を拒絶する」(表1-3、資料9-1・2・3)

ADL低群では968名(13.1%)、ADL中群では627名(10.5%)、ADL高群では183名(5.7%)の該当者がおり、ADLがやや影響を及ぼしているものの、他の要因が影響を持っている課題と考えられる。ADL高群では入浴の形態として「主に個別浴槽を使用」の場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が高かった。状態像としては、3群とも共通に「不穏暴言」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であった。ADL高群だけの特徴としては、「活動意欲」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であり、「自発的行動」において、状態像がよい場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であった。また、ADL低群・中群では、「記憶」、「言語コミュニケーション」、「変化への適応」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であったが、ADL高群では有意ではなかった。

これらを総合して考察すると、「入浴の介助を拒絶する」ことは、ADLの状態

に関わらず、記憶の持続が短いこと、コミュニケーションがうまくいかないこと、変化への適応が悪いことによって生じやすいと考えられる。またADLの状態が全般に良好である場合には、活動意欲がないこと、一方で自発的に行動する傾向があることによって「入浴の介助を拒絶する」ことが生じやすいことが示唆された。

表1-3 オッズ比の有意性比較表(入浴)

項目	項目1			項目3			項目11		
	L	M	H	L	M	H	L	M	H
視力			-			-			-
聴力	*								
ADL	-			-					
記憶	*	*	*	*	*		*	*	
見当識							*		
判断				*	*				
言語コミュニケーション	-						*	*	
認識と動作		-			-				
感情表現	-			-		*			
変化への適応	*	*	*	*	*	*	*	*	
自発的行動	*								-
活動意欲	*	*	*	*					*
妄想	*	*					*		
不安									
幻覚		-							
不穏暴言	*	*	*	*	*	*	*	*	*
反復的動作	*	*	*	*	*		*	*	
主に機械浴槽を使用	-			*					
主に個別浴槽を使用			*	*	*	*			*
主に大浴槽を使用			*	*					

*: 状態像が悪いと、ニーズ項目への該当率が高い

-: 状態像が良いと、ニーズ項目への該当率が高い

D. 結論

本研究では、特別養護老人ホームおよび認知症グループホームにおいて介護サービスを利用している認知症高齢者を対象として、さまざまな状態像と摂食、排泄（排尿）、入浴に関する介護ニーズとの関係を検討した。本研究における調査及び分析の手法は横断的なものであり、状態像が原因で介護ニーズがその結果生じたものであるとはいえないことは言うまでもない。その逆に、介護ニーズの発生によって生じた状態像である可能性が強いものもあった。例えば、入浴における「個別浴槽の使用」は、それぞれの介護ニーズの発生とADLの状態を勘案して、大浴槽から個別浴槽に変更したケースがあると考えられる。

しかし、認知症ケアの現場では、本研究で解析対象としたような介護ニーズが発生した場合に、それを最初に発生させた介護ニーズを追及して明らかにしても、ニーズが顕在化した時点では、その介護ニーズが新たな状態像を生じさせている原因となっている場合もあり、ニーズと状態像の関係は単純な因果関係ではなく、より複雑な双方向的な関係となっていると考えられる。本研究の結果も、そのような双方向的な視点で見ることが必要であり、ここで取り上げた介護ニーズの原因というよりも、随伴する状態像として解釈することが望ましいといえよう。

付 録

(1) 調査票

(2) ロジスティック回帰分析の結果 (資料1-1~9-3)

認知症介護と状態像に関する調査（利用者調査）H19版

各項目に数値等を記入するか、最もあてはまる選択肢に○をつけてください。

最後に施設・事業所の環境に関する質問がありますので、最終面までお目通しください。

入居している施設・事業所の種類	1. 介護老人福祉施設 2. 認知症対応型共同生活介護
性別(あてはまる方に○)・年齢	男 女 年齢 () 歳
入居からの経過年月	() 年 () 月ぐらい
要介護度	要支援1 経過的要介護 要支援2 要介護1 要介護2 要介護3 要介護4 要介護5
心身の状態	[認知症高齢者自立度] なし I II III IV M
	[障害老人自立度] 自立 J A B C
認知症のタイプ	1. アルツハイマー型の認知症 2. 脳血管性の認知症 3. その他 () 4. 不明・特定できず
日常に支障をきたす麻痺または筋力低下 (該当する箇所すべてに○)	1. 左上肢 2. 右上肢 3. 左下肢 4. 右下肢 5. 手指
視力の低下	1. 見える 2. やや見えにくい 3. かなり見えにくい
聴力の低下(主に会話について)	1. 聞こえる 2. やや聞こえにくい 3. かなり聞こえにくい
食事	1. 自立(標準的的时间内に食べ終わる) 2. 一部介助(きざみなどの準備を含む) 3. 全介助
車いすからベッドへの移乗	1. 自立(歩行自立を含む) 2. 軽度の一部介助(見守り含む) 3. 座位は可能+移乗は全介助 4. 全介助(または不可能)
整容(洗面・整髪・歯磨き・ひげそり)	1. 自立 2. 介助が必要(または不可能なものがある)
トイレ動作	1. 自立 2. 一部介助(体を支える・衣服着脱・後始末など部分的介助) 3. 全介助(すべて介助、おむつ使用を含む)
入浴	1. 自立 2. 介助が必要(または不可能)
歩行・移動	1. 45m歩行可能(補装具可、車いす・歩行器は使用しない) 2. 歩行器で45m歩行可能 3. 車いすで45m以上自力移動 4. その他
階段昇降	1. 自立(手すり使用は可) 2. 介助や見守りが必要 3. 不可能
着替え (靴、ファスナーなどを含む)	1. 自立 2. 一部介助(半分以上自立、時間的にも著しく遅くない) 3. その他(かなり介護が必要、著しく遅い)
排便コントロール	1. 失禁なし(浣腸・座薬等を自分で使っている場合を含む) 2. ときどき失禁(浣腸・座薬等の介助が必要) 3. その他(失禁多い)
排尿コントロール	1. 失禁なし(収尿器を自力で使っている場合を含む) 2. ときどき失禁(収尿器の介助が必要) 3. その他(失禁多い)
歩行距離範囲外の場所に行く	1. 介助なしで交通機関を利用可能 2. 介助が必要または不可能
買い物に行く	1. 介助なしで可能 2. 介助が必要または不可能
食事の支度	1. 介助なしで可能(献立・調理全般) 2. 介助が必要または不可能
家事(掃除など)	1. 介助なしで可能 2. 介助が必要または不可能
家事(身の回りの片付け)	1. 介助なしで可能 2. 介助が必要または不可能
金銭管理(預金や支払いの管理)	1. 介助なしで可能 2. 介助が必要または不可能
社会的手続き	1. 介助なしで可能 2. 介助が必要または不可能
生活に満足している様子か?	1. たいてい 2. ときどき 3. ほとんど(または全く) そうでない
安心している様子か?	1. たいてい 2. ときどき 3. ほとんど(または全く) そうでない

出来事の記憶（10分程度）	1. 覚えていることが多い 2. 覚えていることがある 3. すぐ忘れる
出来事の記憶（1日程度）	1. 覚えていることが多い 2. 覚えていることがある 3. すぐ忘れる
出来事の記憶（1週間程度）	1. 覚えていることが多い 2. 覚えていることがある 3. すぐ忘れる
見当識（時間、場所の認識）	1. 理解している 2. 言えば理解できる 3. 言ってもわからない
日常生活で次にすることを判断	1. 自分でできる 2. 言えばわかることが多い 3. 言ってもわからない
ことば・話しの理解	1. 理解している 2. 少し理解できる 3. わからないことが多い
話しをすること（頻度）	1. よく話す 2. ときどき話す 3. ほとんど話さない・不可能
話しをすること（意図の伝達）	1. 自分の意思を伝えられる 2. 少し伝えられる 3. できない
物の認識（誤認の程度）	1. 誤認は少ない 2. ときどき誤認する 3. よく誤認する
複雑な動作（着替えなど）	1. 可能 2. 体は動くが動作の組み合わせができない 3. 体が動かない
動作などを見てまねる（模倣）	1. 模倣できる 2. ときどきできる 3. できない
性格の変化	1. 病前（または利用開始時）と変わらない 2. 変わった
感情表現（激しい表現）	1. 上手く表現できる 2. ときどき激しく表現する 3. 激しく表現することが多い 4. ほとんど表現しない
対人関係（会話や交流）	1. 自分でできる 2. 援助すればできる 3. できないことが多い
環境の変化への対応	1. 適応できることが多い 2. 少し混乱しやすい 3. 激しく混乱する
自発的な活動性	1. よく動く 2. 少し動く 3. ほとんど動かない
全般的な意欲・活力	1. いつも意欲がある 2. 意欲が低いときがある 3. ほとんどない
集団活動への参加	1. 自発的に参加 2. 促せば参加 3. 参加しない
物盗られ妄想（妄想の内容）	1. なし 2. 物を盗られた 3. 家や部屋に侵入された 4. 侵入者と話し・声に聞き耳
帰宅願望（行動のレベル）	1. なし 2. 訴えがある 3. 実際に出て行こうとする 4. 止められると暴力
配偶者がにせものという妄想	1. なし 2. 該当の言動がある 3. 配偶者自身に言って怒る 4. 配偶者に言って暴力
見捨てられ妄想	1. なし 2. 該当の言動がある 3. 言動とともに非難する 4. 言動とともに攻撃
不義・不実の妄想（配偶者、子供、介護者）	1. なし 2. 該当の言動がある 3. 言動とともに怒りを示す 4. 言動とともに暴力
猜疑心	1. なし 2. 該当の言動がある 3. 強い猜疑心や怒りを示す 4. 言動とともに暴力
上記以外の妄想	1. なし 2. ありそう 3. 言動がある 4. 言動とともに行動や暴力
幻視（見ることの幻覚）	1. なし 2. 対象は不明確だがありそう 3. 対象が明らか 4. 対象への言動・感情表出
幻聴（聞くことの幻覚）	1. なし 2. 対象は不明確だがありそう 3. 対象が明らか 4. 対象への言動・感情表出
幻嗅（においの幻覚）	1. なし 2. 対象は不明確だがありそう 3. 対象が明らか 4. 対象への言動・感情表出
幻触（何かが触っている幻覚）	1. なし 2. 対象は不明確だがありそう 3. 対象が明らか 4. 対象への言動・感情表出
その他の幻覚	1. なし 2. 対象は不明確だがありそう 3. 対象が明らか 4. 対象への言動・感情表出
徘徊	1. なし 2. あるがやめさせるほどではない 3. 生活や安全のため減らす必要がある 4. 減らす働きかけに対して言動や感情の表出がある（怒る、嫌がるなど）
行動の反復（開閉を繰り返す、質問を繰り返すなど）	1. なし 2. あるがやめさせるほどではない 3. 生活や安全のため減らす必要がある 4. 減らす働きかけに対して言動や感情の表出がある（怒る、嫌がるなど）
必要な物を捨てたり、不適切な場所に置く	1. なし 2. あるがやめさせるほどではない 3. 生活や安全のため減らす必要がある 4. 減らす働きかけに対して言動や感情の表出がある（怒る、嫌がるなど）
暴言	1. なし 2. あり（言葉遣い） 3. あり（怒りが伴う） 4. あり（他人に向けられる）
威嚇や暴力	1. なし 2. あり（威嚇） 3. あり（暴力的行動） 4. あり（激しい暴力）
不穏（攻撃的な雰囲気や言動）	1. なし 2. あり（雰囲気） 3. あり（感情的な言動） 4. あり（行動に現れる）
夜間の睡眠状態	1. なし 2. 何度も覚醒 3. 睡眠が本来の70%以下 4. 睡眠が本来の50%未満

悲しみの感情	1. なし 2. あり(雰囲気) 3. あり(明らかな感情的表出) 4. あり(身振りや行動あり)
激しい抑うつ(死にたいという言動)	1. なし 2. あり(ときどき) 3. あり(よく言う) 4. あり(身振りや行動もあり)
間近な約束や予定への不安	(質問や行動の繰り返しの程度) 1. なし 2. ある 3. 周囲が困る 4. 周囲が耐え難い
その他の不安	(質問や行動の繰り返しの程度) 1. なし 2. ある 3. 周囲が困る 4. 周囲が耐え難い
独りぼっちになる恐怖(の訴え)	1. なし 2. ある 3. 介護者が対応する必要 4. 常に付き添いが必要
その他の恐怖(訴えや行動)	1. なし 2. ある 3. 介護者が対応する必要 4. やめさせる必要がある行動
行動障害や精神症状による介護者の負担と本人の危険性の総合評価	0. まったくない 1. 軽度 2. 中等度 3. 高い

以下の項目は、食事、排尿、入浴、着替えの4つの生活機能と介護について詳細にお聞きするものです。この方の課題となっていること(援助が必要な日常生活機能)を選択して、記入をお願いします。

(1) 食事(摂食)に関する課題と介護 ……「摂食」が自立の場合には、この項目について回答の必要はありません

1 全面的に介助 2 一部を介助 3 環境の整備や見守りだけ ……(1つだけ選択)

<食事(摂食)の状況について、以下の項目のなかであてはまるものすべてに○をつけてください(複数可)>

- | | | |
|------------------|--------------------|----------------|
| 1. 自力では全く食事ができない | 2. 途中で食べることをやめてしまう | 3. 他の人の食事に手を出す |
| 4. 食べ物をもてあそんでしまう | 5. いすに座っての姿勢保持が困難 | 6. 腕が動かない |
| 7. 指が上手く動かない | 8. 食事に対する意欲が低い | 9. 食卓上の認知ができない |
| 10 食事の時間という認識が低い | 11 食事に集中できない | 12 食欲が無いことが多い |
| 13 不安が高くなる | 14 食事の介護を嫌がる | 15 食べるのが好き |

その他の特徴・状態像などがあれば、自由に記述してください。

(2) 排尿に関する課題と介護 ……「排尿」が自立の場合には、この項目について回答の必要はありません

1 全面的に介助 2 一部を介助 3 見守りだけ ……(1つだけ選択)

<排尿の状況について、以下の項目のなかであてはまるものすべてに○をつけてください(複数可)>

- | | | |
|--------------------------|------------------------|------------------|
| 1. 排泄感がない | 2. 排尿への意欲がない | 3. トイレまでの行き来が困難 |
| 4. トイレまで行くのに時間がかかる | 5. トイレの場所がわからない | 6. トイレのドアを開けられない |
| 7. 衣服の着脱が困難 | 8. 便器等への移乗が困難 | 9. 便器の使用法がわからない |
| 10 便器に座っても自力での排尿が困難 | 11 おむつ・パッドの交換が自力ではできない | |
| 12 ポータブルトイレの後始末が自力ではできない | 13 介助を恥ずかしがる | |
| 14 排尿の介助を嫌がる | 15 よく漏らしてしまう | 16 ときどき漏らしてしまう |
| 17 カテーテル | 18 おむつ使用 | 19 ポータブルトイレ使用 |
| 20 トイレを使用 | 21 尿取りパッドを併用 | |

その他の特徴・状態像などがあれば、自由に記述してください。

(3) 入浴に関する課題と介護 ……「入浴」が自立の場合には、この項目について回答の必要はありません

1 入浴できない・しない 2 ほとんど介助が必要 3 一部を介助 4 見守りのみ …(1つだけ選択)			
＜入浴の状況について、以下の項目のなかであてはまるものすべてに○をつけてください(複数可)＞			
1. 浴室に行くのを嫌がる	2. 浴室までの行き来が困難	3. 浴室内で入浴行為を嫌がる	
3. 脱衣が困難	4. 着衣が困難	5. 脱衣を嫌がる	
6. 着衣を嫌がる	7. 洗身ができない	8. 洗髪ができない	
9. 浴槽に自力では入れない	10 入浴の介助を拒絶する	11 入浴への意欲がない	
12 清拭のみ	13 主に機械浴槽で入浴	14 主に個別用浴槽で入浴	
15 主に大浴槽で入浴	16 身体的要因(疾病を含む)で入浴できない		
その他の特徴・状態像などがあれば、自由に記述してください。			
(4)着替えに関する課題と介護 …「着替え」が自立の場合には、この項目について回答の必要はありません			
1 全介助 2 着替えを一部介助 3 見守り・簡単な支援 …(1つだけ選択)			
＜着替えの状況について、以下の項目のなかであてはまるものすべてに○をつけてください(複数可)＞			
1. ボタンをはずせない	2. シャツを頭から脱ぐことが難しい	3. ズボンを脱ぐことが難しい	
4. 靴下を脱ぐことが難しい	5. ボタン留めができない	6. シャツを頭から着ることが難しい	
7. ズボンをはくことが難しい	8. 靴下をはくことが難しい	9. 着衣を嫌がることが多い	
10 着衣する意欲がない	11 脱衣を嫌がるが多い	12 脱衣する意欲がない	
13 服を選択できない	14 服に関心が少ない	15 特定の服にこだわりがある	
16 着替えをすべき時間を認識できない		17 着替えの介助を嫌がる	
その他の特徴・状態像などがあれば、自由に記述してください。			
◎ この入居者の方に関する施設・事業所の環境についてお聞きします。			
施設種類(施設のみ)	1. ユニット型 2. 準ユニット型 3. 従来型		
建物の種類 (グループホームのみ)	1. 既存の民家・一般住宅を改造 2. 既存の施設・病院・寮等を改造 3. 新たに建築(木造、民家型) 4. 新たに建築(鉄筋、施設型) 5. その他		
利用者の居室	1. 個室 2. 準個室(簡易な仕切り) 3. 多床室(2人) 4. 多床室(4人以上)		
食事の場所(通常)	1. 大食堂(15名以上) 2. 居間や小さい食堂(15名未満) 3. 居室 4. 経管栄養		
入浴の形態	1. 大浴場(5名以上入浴可) 2. 中浴場(3~5名入浴可) 3. 小型の浴室(1・2名入浴可) 4. 機械浴(座位) 5. 機械浴(臥位) 6. その他		

※施設・事業所の環境について、補足事項がありましたら、下記をお願いします。

資料1-1

ADL低群

1=自力では全く食事ができない

(%)

あり	1199	16.2
なし	6189	

オッズ比

点推定値 95%信頼限界
 下限 上限

視力	1.258	1.096	1.445 *
聴力	0.727	0.633	0.836 -
ADL	0.899	0.889	0.909 *
記憶	0.880	0.769	1.006
見当識	1.237	0.936	1.635
判断	0.902	0.671	1.213
言語コミュニケーション	1.347	1.263	1.437 *
認識と動作	1.285	1.184	1.395 *
感情表現	1.041	0.945	1.147
変化への適応	0.941	0.823	1.076
自発的行動	1.177	0.999	1.387
活動意欲	1.344	1.093	1.652 *
妄想	0.903	0.801	1.019
不安	1.059	0.939	1.194
幻覚	1.089	0.965	1.229
不穏暴言	0.903	0.861	0.948 -
反復的動作	0.868	0.777	0.970 -
座位姿勢の保持困難	1.361	1.106	1.675 *
腕が動かない	2.846	2.240	3.617 *
指がうまく動かない	1.061	0.857	1.313
食事意欲が低い	1.055	0.861	1.293
食卓上の認知困難	1.498	1.213	1.849 *
食事時間の認知困難	1.169	0.953	1.434
食べることが好き	0.716	0.581	0.881 -

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	92.3	Somer's D	0.847
不一致の割合	7.5	ガンマ	0.849
タイの割合	0.2		

資料1-2

ADL中群

1=自力では全く食事ができない

		(%)
あり	39	0.7
なし	5910	

オッズ比

	点推定値	95%信頼限界	
		下限	上限
視力	0.761	0.388	1.493
聴力	0.999	0.532	1.875
ADL	0.923	0.875	0.975 *
記憶	1.084	0.660	1.781
見当識	0.919	0.317	2.664
判断	1.152	0.403	3.294
言語コミュニケーション	1.044	0.804	1.355
認識と動作	1.260	0.870	1.826
感情表現	0.960	0.648	1.422
変化への適応	1.299	0.690	2.446
自発的行動	1.181	0.686	2.035
活動意欲	1.074	0.531	2.171
妄想	0.820	0.514	1.309
不安	0.891	0.576	1.379
幻覚	1.546	1.036	2.306 *
不穏暴言	0.800	0.646	0.991 -
反復的動作	0.898	0.576	1.399
座位姿勢の保持困難	2.753	0.821	9.228
腕が動かない	5.423	1.156	25.447 *
指がうまく動かない	0.947	0.222	4.047
食事意欲が低い	6.362	2.626	15.413 *
食卓上の認知困難	2.966	1.322	6.654 *
食事時間の認知困難	2.017	0.839	4.849
食べることが好き	2.335	0.946	5.763

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	88.3 Somer's D	0.825
不一致の割合	5.7 ガンマ	0.878 *
タイの割合	6	

資料1-3

ADL高群

1=自力では全く食事ができない

	(%)
あり	3 0.1
なし	3235

モデル不適合

年齢	性別	モデル不適合	割合
65	男	0	0.0
65	女	0	0.0
66	男	0	0.0
66	女	0	0.0
67	男	0	0.0
67	女	0	0.0
68	男	0	0.0
68	女	0	0.0
69	男	0	0.0
69	女	0	0.0
70	男	0	0.0
70	女	0	0.0
71	男	0	0.0
71	女	0	0.0
72	男	0	0.0
72	女	0	0.0
73	男	0	0.0
73	女	0	0.0
74	男	0	0.0
74	女	0	0.0
75	男	0	0.0
75	女	0	0.0
76	男	0	0.0
76	女	0	0.0
77	男	0	0.0
77	女	0	0.0
78	男	0	0.0
78	女	0	0.0
79	男	0	0.0
79	女	0	0.0
80	男	0	0.0
80	女	0	0.0
81	男	0	0.0
81	女	0	0.0
82	男	0	0.0
82	女	0	0.0
83	男	0	0.0
83	女	0	0.0
84	男	0	0.0
84	女	0	0.0
85	男	0	0.0
85	女	0	0.0
86	男	0	0.0
86	女	0	0.0
87	男	0	0.0
87	女	0	0.0
88	男	0	0.0
88	女	0	0.0
89	男	0	0.0
89	女	0	0.0
90	男	0	0.0
90	女	0	0.0
91	男	0	0.0
91	女	0	0.0
92	男	0	0.0
92	女	0	0.0
93	男	0	0.0
93	女	0	0.0
94	男	0	0.0
94	女	0	0.0
95	男	0	0.0
95	女	0	0.0
96	男	0	0.0
96	女	0	0.0
97	男	0	0.0
97	女	0	0.0
98	男	0	0.0
98	女	0	0.0
99	男	0	0.0
99	女	0	0.0
100	男	0	0.0
100	女	0	0.0
合計	男	0	0.0
合計	女	0	0.0
合計	合計	0	0.0

資料2-1

ADL低群

2=途中で食べることをやめてしまう

		(%)
あり	3175	43.0
なし	4213	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界	
		下限	上限
視力	0.926	0.849	1.011
聴力	0.967	0.894	1.045
ADL	1.007	1.003	1.012 -
記憶	1.163	1.089	1.242 *
見当識	1.103	0.960	1.266
判断	1.251	1.078	1.452 *
言語コミュニケーション	1.019	0.983	1.057
認識と動作	0.984	0.939	1.032
感情表現	0.926	0.871	0.985 -
変化への適応	0.988	0.906	1.077
自発的行動	1.125	1.030	1.230 *
活動意欲	1.041	0.932	1.162
妄想	0.964	0.902	1.029
不安	1.093	1.023	1.168 *
幻覚	1.152	1.076	1.233 *
不穏暴言	1.033	1.003	1.063 *
反復的動作	1.068	1.003	1.137 *
座位姿勢の保持困難	1.143	0.978	1.336
腕が動かない	0.677	0.559	0.818 -
指がうまく動かない	1.244	1.075	1.440 *
食事意欲が低い	3.983	3.463	4.580 *
食卓上の認知困難	1.019	0.881	1.180
食事時間の認識困難	1.864	1.637	2.123 *
食べることが好き	0.544	0.483	0.612 -

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	73.5 Somer's D	0.472
不一致の割合	26.3 ガンマ	0.473
タイの割合	0.3	

資料2-2

ADL中群

2=途中で食べることをやめてしまう

		(%)
あり	1282	21.5
なし	4667	

オッズ比

	点推定値	95%信頼限界	
		下限	上限
視力	0.920	0.801	1.057
聴力	0.859	0.765	0.965 -
ADL	0.969	0.960	0.978 *
記憶	1.133	1.042	1.233 *
見当識	1.315	1.093	1.582 *
判断	1.149	0.944	1.400
言語コミュニケーション	1.123	1.067	1.182 *
認識と動作	1.042	0.973	1.116
感情表現	1.001	0.911	1.099
変化への適応	1.124	0.976	1.293
自発的行動	0.962	0.848	1.091
活動意欲	1.105	0.949	1.288
妄想	0.845	0.770	0.928 -
不安	0.999	0.911	1.094
幻覚	1.176	1.071	1.291 *
不穏暴言	1.039	0.995	1.084
反復的動作	1.103	1.004	1.211 *
座位姿勢の保持困難	1.638	0.996	2.693
腕が動かない	1.555	0.720	3.360
指がうまく動かない	1.008	0.673	1.509
食事意欲が低い	7.717	6.122	9.727 *
食卓上の認知困難	2.037	1.593	2.603 *
食事時間の認識困難	2.533	2.079	3.086 *
食べるのが好き	0.554	0.462	0.664 -

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	82.9 Somer's D	0.661
不一致の割合	16.8 ガンマ	0.663
タイの割合	0.3	

資料2-3

ADL高群

2=途中で食べることをやめてしまう

		(%)
あり	139	4.3
なし	3099	

オッズ比

	点推定値	95%信頼限界	
		下限	上限
視力	0.561	0.337	0.933 -
聴力	0.869	0.629	1.201
ADL	0.961	0.932	0.989 *
記憶	0.851	0.692	1.046
見当識	1.549	0.981	2.445
判断	1.536	0.920	2.566
言語コミュニケーション	0.997	0.860	1.155
認識と動作	1.249	1.035	1.508 *
感情表現	0.996	0.758	1.308
変化への適応	0.977	0.670	1.425
自発的行動	1.017	0.705	1.467
活動意欲	1.629	1.071	2.478 *
妄想	1.009	0.784	1.299
不安	1.014	0.795	1.293
幻覚	0.957	0.739	1.238
不穏暴言	0.929	0.822	1.051
反復的動作	1.571	1.202	2.053 *
座位姿勢の保持困難	0.363	0.017	7.634
腕が動かない	<0.001	<0.001	>999.999
指がうまく動かない	<0.001	<0.001	>999.999
食事意欲が低い	25.409	14.220	45.400 *
食卓上の認知困難	3.386	1.482	7.737 *
食事時間の認知困難	4.731	2.677	8.360 *
食べることが好き	0.868	0.517	1.459

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	88.7 Somer's D	0.783
不一致の割合	10.4 ガンマ	0.790
タイの割合	0.8	

資料3-1

ADL低群

3=他の人の食事に手を出す

	(%)
あり	1815 24.6
なし	5573

オッズ比

	点推定値	95%信頼限界	
		下限	上限
視力	0.708	0.635	0.790 -
聴力	0.807	0.732	0.888 -
ADL	1.010	1.005	1.016 -
記憶	1.158	1.061	1.265 *
見当識	1.509	1.264	1.801 *
判断	1.578	1.313	1.896 *
言語コミュニケーション	1.125	1.078	1.174 *
認識と動作	1.094	1.033	1.159 *
感情表現	0.891	0.826	0.960 -
変化への適応	1.043	0.942	1.156
自発的行動	0.742	0.670	0.821 -
活動意欲	0.839	0.737	0.954 -
妄想	0.865	0.801	0.935 -
不安	0.990	0.918	1.068
幻覚	1.066	0.985	1.155
不穏暴言	1.097	1.061	1.135 *
反復的動作	1.312	1.221	1.409 *
座位姿勢の保持困難	1.178	0.975	1.422
腕が動かない	0.411	0.316	0.535 -
指がうまく動かない	0.914	0.763	1.095
食事意欲が低い	0.695	0.583	0.828 -
食卓上の認知困難	1.552	1.321	1.823 *
食事時間の認識困難	1.532	1.319	1.779 *
食べるのが好き	3.362	2.948	3.835 *

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	79.9 Somer's D	0.599
不一致の割合	19.9 ガンマ	0.601
タイの割合	0.2	

資料3-2

ADL中群

3=他の人の食事に手を出す

		(%)
あり	1034	17.4
なし	4915	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界	
		下限	上限
視力	0.863	0.740	1.006
聴力	0.745	0.652	0.851 -
ADL	0.976	0.967	0.986 *
記憶	1.173	1.063	1.293 *
見当識	1.311	1.066	1.611 *
判断	1.476	1.190	1.830 *
言語コミュニケーション	1.093	1.034	1.156 *
認識と動作	1.290	1.195	1.393 *
感情表現	0.997	0.898	1.107
変化への適応	1.069	0.920	1.242
自発的行動	0.791	0.690	0.906 -
活動意欲	0.899	0.765	1.055
妄想	0.816	0.739	0.900 -
不安	0.995	0.903	1.097
幻覚	1.183	1.072	1.307 *
不穏暴言	1.089	1.039	1.141 *
反復的動作	1.266	1.146	1.399 *
座位姿勢の保持困難	1.273	0.752	2.155
腕が動かない	0.538	0.207	1.394
指がうまく動かない	0.869	0.555	1.360
食事意欲が低い	0.724	0.535	0.980 -
食卓上の認知困難	2.146	1.672	2.754 *
食事時間の認知困難	1.795	1.449	2.224 *
食べるのが好き	5.268	4.439	6.251 *

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	79.9 Somer's D	0.599
不一致の割合	19.9 ガンマ	0.711
タイの割合	0.2	

資料3-3

ADL高群

3=他の人の食事に手を出す

		(%)
あり	167	5.2
なし	3071	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界	
		下限	上限
視力	0.863	0.500	1.097
聴力	0.745	0.760	1.341
ADL	0.976	0.945	0.994 *
記憶	1.173	1.124	1.704 *
見当識	1.311	0.814	1.830
判断	1.476	0.722	1.769
言語コミュニケーション	1.093	1.147	1.489 *
認識と動作	1.290	1.038	1.453 *
感情表現	0.997	0.713	1.184
変化への適応	0.879	0.634	1.219
自発的行動	0.600	0.410	0.877 -
活動意欲	0.917	0.645	1.302
妄想	0.837	0.663	1.056
不安	0.974	0.779	1.217
幻覚	0.924	0.722	1.183
不穏暴言	1.123	1.004	1.256 *
反復的動作	1.389	1.099	1.755 *
座位姿勢の保持困難	0.277	0.016	4.720
腕が動かない	<0.001	<0.001	>999.999
指がうまく動かない	0.653	0.072	5.904
食事意欲が低い	0.488	0.126	1.889
食卓上の認知困難	4.892	2.182	10.969 *
食事時間の認知困難	2.086	1.167	3.727 *
食べることが好き	8.976	6.122	13.160 *

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	88.8 Somer's D	0.783
不一致の割合	10.6 ガンマ	0.788
タイの割合	0.6	